

【めむろ未来ミーティング日程 6】

令和2年1月15日(水)

10:00～11:25

中伏古地区老人憩いの家

■参加者 10人

■芽室町 副町長、総務課長、農林課長補佐、建設
都市整備課長補佐

■記録 池田

■対応・検討が必要な事項

- ①子どもセンター送迎の件（子どもセンター・学校教育課）
- ②給食の件（給食センター）
- ③公立病院の件（公立芽室病院）
- ④町営リンクの件（学校教育課・社会教育課）
- ⑤冬休みの期間の件（学校教育課）

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
『公共施設の配置構想』
- 4 意見交換

【意見】

子供から言われたことだが、芽室小や芽室中の所の学童、あいりすの横断歩道を渡ろうとしたところ、いきなりクラクションを鳴らされたとのこと。また、何回か中学校の送迎をする時にも、あいりすの利用者の親がワインカーを付けないでいきなり入って行ったり出てきたり、あそこの道は狭いこともあります、非常に危ない。何かをしていただけないと助かる①。

【副町長】

理解した。学校側にも、あいりすの保護者も含めて学校と子どもセンターのほうから注意喚起を促す。

【意見】

是非お願いします。

【意見】

昨年、印鑑証明を何回か取りに行つたが、カードを忘れてしまったことがあった。実印も免許の身分証明書も持っていたので発行可能だろうと受付を行つた所、「カードが無いと発行できない」と言われ驚いた。結局家に戻つてカードを取りに行き発行できたのだが、本人がいて、身分証明と印鑑があつて、それでも印鑑証明の発行ができないというのはおかしいのではないかと感じた。その点に関してどうお考えか。

【副町長】

結論から言うと、法律で決められていることなので、残念ながらこの仕組みは変えようがない。

実は私も同じ経験があり、カードを忘れて持つていなか以上、私でも発行できないと言われた。仰るような疑問を抱えている方もいると思うので、改めて、「こういう決まりがあるからこうせざるを得ない」ということを含めて周知等したい。

【意見】

芽室南小学校についての質問。将来の児童数が減少するのではないかと心配しているが、その上で町としてどのように考えているのか。芽室小と合併する予定はあるのかということも含めてお聞きしたい。

【副町長】

本日教育長が来ていないため、教育委員会としての見解ではなく町全体の考え方として説明したい。

まず芽室町の人口の状況を説明するが、去年の12月末現在で1万8千468人、1年前の平成30年同時期で見ると1万8千667人ということで、1年間で200人の人口が減っていることになる。200人減ってはいるが、実は世帯分離等が増えた関係もあり、世帯数としてはこの1年間で10世帯しか減っていない。

もう1つ着目したい所は、転入・転出人口で比べると、そこまで減ってはいない。市街地では住宅が建っていることから、出生数、死亡数により人口が変わっていることが分かる。

先週の12日に成人式があったが、その名簿に載っている方が207人、去年町内中学校で卒業証書を渡したのが160人、そして去年1年間の芽室で生まれた子どもがついに100人を切って90人台。単純に計算すると、現在小学校一学級が35人なので、芽室町で3学級あれば足りる状況になってしまうことになる。

こうした現状から6年後小学校がどうなっていくかを考えなければならない。ただ、ご質問の芽室南小や上美生小学校というのは簡単に無くすということにならず、手段として複式学級ということは場面によってはあるかも知れないが、そこを単純に無くす前提で考えてはいない。上美生小・芽室南小を残したとしても、残った数で行くと芽室小と芽室西小で3クラスという事態が6年後には間違いく不出てくる。その時に、今は芽室小と芽室西小の学区というのは線を引いているが、それがまた議論になってくると思うし、可能性はかなり低いとは思うが、統合ということも場合によってはあり得る。町内の学校に関しては、こうした状況である。

芽室南小の話に戻るが、この伏古地区、上伏古まで含めて、その中で子どもがどれくらい居るかというのは町として当然将来予測は立てているし、今現在は芽室南小の存続というのは議論には上がって来ていないというお答えになるが、一方で現在町の人口を見て行くと20代・30代の女性が男性に比べ、かなり少なくなっているという現実もあり、遠い将来はそういった存続を考える時代が来るのだろうとも思っている。そうなった時、子どもの教育上どういった環境が好ましいのかという視点もある程度考えいかねばならない。その時に芽室南小が他の学校に移るのがいいのか、その場合はどこがいいのか、しっかりと考えていく。

【意見】

千歳に行くことがあって、そこでは人口が増えて

いるという話も聞くが、何か要因はあるのだろうか。

【副町長】

仰る通り、千歳は増えている。

自衛隊や空港等、色々なサービス産業がどんどん成長しているということもあり、また札幌通勤圏ということで千歳に住むという方も多いと思う。そこで新たな産業・政策があってそれで人口が増えているというよりも、恐らくは日常生活の利便性を考えて住んでいるケースが少なくないと考えている。

【意見】

今の話にも関係しているが、農村地区の交通の利便性の話。

免許返納をしたいが、代替となる交通手段が無いから出来ないという問題が話題となっている最近家族とも話をしたが、年を取って自分で運転できなくなって、このまま農村部に住めるのかなという悩みがある。息子なども、「市街地に住んだ方が良いのではないか」と言われ、自分もそれも一つの手かなと思ったりする。こうしたケースを考えた時、町としては住宅の情報提供や斡旋というようなことは考えているのか。そのような情報提供があれば、市街地に住もうとしている高齢者も町内で最後まで暮らしやすいのではないかと思うので、民間とも連携する等してお願いしたい。色々な条件が無いと町外に出てしまうという方も少なくはないと思う。

【副町長】

2つ論点がある、まず農村地域の高齢者の交通手段の対策と、もう1つは住まいに関して。

免許返納というのは当然課題として挙がっていて、実際にこの2月にもタクシ一代助成のモニター制度を実施しようと思っている。本当はじゃがバスのようなバスを農村地帯に定期便で通わせられれば良いのだが、莫大なお金がかかることに加え、どうしても農村地域の方はバス停が遠く、「家の前で乗って家の前で降りたい」という希望が多いこと、また好きな時間に利用できるという利便性から、一部助成を出した上でタクシーを使っていただくことが適切だ

と現状では考えている。これと同じ手法を使っているのが鹿追町。

また、音更町は乗り合いバスといって予約制で行き先が1か所の定期便を出すという手法を取っており、他町村の状況も参考にしつつ、色々な方法を試しながら一番良い方法を検討していきたい。

次に、住宅について。

言われたように、足の問題や冬期間の生活のしやすさ等考えた上で、市街地に住みたいという声も多くなっていると聞く。理想は自力で一軒家を建ててそこで生活する形が一番良いのだと思うが、夏は地元で生活し、冬は町で過ごしたいという要望の方もいるので、こうした政策は必要だと感じる。現状の住宅政策で言えば、先程説明した国立試験場の官舎を4棟あるうちの2棟町が買い取り、合計24戸ある。現在、農業も含めて就労者対策ということで、例えば数週間農業で働きに来たいがその間住む場所が無く、マンション等も短期では貸してくれず、そうした方に入るような住宅として使いたいと思っている。酪農家に通年で入るような方は当然その酪農家の方がご自分で住まいを用意しているが、今述べたように、畑作で季節的に雇用をしたいという方の住宅がちょうど無い。これはJAとも相談しているが、このように整備している状況。そういう中でも冬の間集合住宅にはなるが農村部の高齢者の方がそこで住むということも選択肢としてはあり得るかなと思っている。

また、公営住宅の所得制限等に関するお問い合わせをされている。

【意見】

農業を始めとして、後継者が中々見つかからず皆困っている。町として色々やっていただいているのも分かるが、今一つ効果が実感できない。他町村、例えば清水の何とか図鑑など、成果が出ているかは分からぬが、こうした所も参考にしつつ色々な手立てを考えていきたい。そうすれば、人口改善にも繋がっていくのではないか。

【副町長】

現実問題として農業委員会と連携しながら、後継者・結婚対策をあの手この手でやっているが、中々成果も出ておらず、結婚相談所やコーディネーター等民間にも話をし、相談員さんによって個人的なことも含めてやっているが、皆さんご承知の通り、この問題に関しては、何かやったらすぐに成果が出るというものではなく難しい部分がある。現在農業振興計画という、農業全体の町としての方針を決める計画があって、その中でもテーマとしては上がっているし、今後も色々な手法を試していくこうという町のスタンスはこれまでも今後も変わらない。もし、こうしたらなどのアイデアや、地域の中にも実際に結婚をした人等がいれば「こうした出会いがあった」というお話など、ご意見いただきたい。ネックは独身男性に「困り感」が無いということだと感じている。

【意見】

先程の人口減少の話に関連して。テレビ等を見ていると、これから将来、農村地域だとか田舎に住んでいてもパソコン（ネット）を繋げて、そんなに会社に行かず自宅勤務の形で働くことも増えていくと思う。仕事が無ければ田舎には住めないということを考える上で、またこの形態によって地元で仕事ができ、都会に流出する若者も少なくなるのではないかということで、やはりこのような雇用形態が増えることも考慮に入れるべきだと考えている。そうなると、やはり問題となるのが、5Gだとか光回線が農村地域に来るのが遅いということ。すぐにできないのは十分理解しているが、早めの対策をお願いしたい。

【副町長】

仰る通りで、国レベルでも、東京の一極集中ということで、東京にある大企業の仕事をいかに地方に移転していくかが課題として呼ばれており、ある意味その受け皿として、芽室町としても受け入れ体制を整えて行かねばならないと思っている。雇用形態はテレワークや在宅という言い方をしているが、北海道では北見の方が結構盛んに行われているとのこ

とで、1か月か2か月に一度本州の本社の赴き、普段は北海道でネット回線を使い働いているとのこと。芽室町としても、やはりそうしたことを考えていく時代だと思うし、当然そのためには今ご意見あったようなハード的な部分、5Gや光というのは前提条件。ただ、個人で在宅勤務をしたいから、農村地域の中の住宅に光を引いてくれというのは、現実的に難しいというお答えになる。町としては、5Gに期待する所が非常に大きく、現在モデル地区で実験的に先行して5Gを入れるという制度を取りにいこうということで進めてはいる。この課題は積極的に進めたい。

【意見】

自分は長芋の組織に関わっているが、やはり労働力不足という問題に直面している。今まで派遣会社やJAを通じて何とか調達していたが、かなり先は明るくない状況。これから時代、副業というのがメジャーになって来ると思うが、公務員は副業はできないのか？聞いた話によると、他の市町村では公務員も副業ができるということがあるので、そうしたことでも踏まえた上で未来の農業のために何らかの知恵やご支援をお願いしたい。

【総務課長】

公務員の副業に関する規制は労働力の問題のために全国的に緩和されている。法律上は駄目なのだが、そこの市区町村長が認めれば良いとのこと。最近だと、年越し前に新聞では渡島の鹿部町で、町職員が漁業に兼業することを町長が許可したこと。

町でも同様のことを農業でできないかということを研究しており、町の産業構造を考えると、農業は基幹産業ではあるが、商業や工業、福祉分野の方にも公平性を持たなければいけないことも考えながら、現在具体的に掘り下げている段階。しかし現在、公務員の働き方改革の中で、本業の時間も減らしまうと言っているのと副業と本業が逆になってしまふということが懸念されている。そのため、先程の高齢者の足の確保の問題同様、まずはモデル事業というか、トライアル的にやってみるというのが良い

かと話していた。ご意見に関する町の現状は以上のようにになっている。また持ち帰って町長にも改めて伝えたいと思っている。

【意見】

子どもが芽室中学校に通っているが、芽室中学校の校舎内によく虫が出没すること。川も近いし、自然の多い場所なので仕方のないことだと思っていたが、ある日給食のサラダにカヘムシが入っていたという。その時は大騒ぎせず、後で先生に伝えたとのことだが、学校の方からも町の方からもその後何も無く、どこまでそれが伝わっているのかすら分からない。食に関わることである以上、これはあってはならないことではないか。町の方からも、しっかり言っていただくようお願いしたい②

【副町長】

そういう話は聞いている。聞いた限りでは、食缶を開けたところ上にいた。それについては一斉に提供を止めたため、口には入っていないことだが、そもそもその虫は何故混入したのかが問題。給食センターで入る可能性というのは、恐らく食缶を閉めた時なので、あるとすれば蓋の裏に付いていた場合。日々管理しているので、可能性としては非常に低いと考えられる。しかし、現実こうして混入していたということなので、今後衛生管理についても改めて点検すべきだという話に落ち着いた次第である。もやしやピーマンを調理する際のビニールの切れ端混入の点検を始めとして、給食センターではあらゆる点検を実施しているが、それでも、ごく稀にこうして出てしまうことはある。当然、あってはならないことはあるし、日々点検を徹底し、今後再発しないように努めたい。

【意見】

うちの子が言うには、食べている時に虫を見つかったとのことで、よく見なければ口に入れてしまったかも知れない状況だったという話②。

【副町長】

そうであるならば、私の聞いているものと案件が違う可能性もある。

【意見】

今の話に加えて、めむろまるごと給食について。素晴らしい試みをしていただいていると思うが、子どもに聞いた所、「あまり美味しい」とのこと。

【副町長】

先程の少子化の話題にも関係するが、現在、給食費の問題で、今の食材がすでに限界に来ており、通常なら給食費を値上げしなければ食材を確保できない状況にある。当然、輸入物の食材を入れれば費用を安く抑えられるが、そうするわけにもいかないので、できれば芽室産、十勝産、北海道産のもの、手に入らないものに関する本州から、という風に考えているが、今の保護者負担の中で提供できる食材というはどうしても限られてしまう。それはまるごと給食でも同様で、作れるものに限界が来ている状況。よって新年度は、通常の給食の保護者負担を上げるのではなく、町の政策として保護者負担は据え置きのまま、町として補助を出して食材費を上げ、内容を充実させる予定。併せて、まるごと給食の回数も、回数が今まま食材を絞ってやるよりも、回数を減らした上で内容をさらに充実させるという方法も検討しており、今後どのようにしていくか話し合っている段階である。

【意見】

要望。保育所に通っている子どもがいて、休みの日に遊びに連れて行くのだが、遊ぶ場所がなくて困る。そうした時は巨大遊具のある（遠くの）公園に行くのだが、そのような公園が芽室にあればありがたい。更別だとか帶広にそういう公園があり、人で賑わっているし、そこで遊んで、付近でご飯を食べるという流れもできると思う。現状だと芽室に「子連れで遊びに来たい」と思える場所はないので、そこが非常に残念。芽室公園などに何か魅力のある遊具を置けないか。

【建設都市整備課長補佐】

公園の長寿命化という工事を進めており、古くなった町内の遊具の更新を現在行っている。今年も芽室公園の坂を下りて行く8丁目という所にある公園、そこは一部新しい遊具の更新をしているが、その長寿命化という観点と、町内に現在55くらい公園と緑地があるが、その遊具や緑地をある程度集約して、今お話をあったように、大型の遊具や目玉になるような遊具を作れないかと現在検討している最中。今後、各種公園の統廃合を図っていく中では、そのような遊具を置ける公園の方も整備したいということも町としては考えている。

【副町長】

もう1つ、嵐山の再生ということで、今ある機能を残しつつ新たな機能を作っていくことを考えていく。パークゴルフ場も大切だが、若いファミリーが来て半日過ごしていただき、楽しんでいただけるような機能をこれから考えていきたい。その中には、町が直接やるという方法もあるし、民間の事業者がそこを使って何かやるという方法もある。端的に、キャンプ場も、現在台風の被害を受けてそのままになっているが、あの機能に関してもどうしていくか、例えばグランピング等も流行っているのでそういう所であったり、今までに無い機能を付けて人を呼び込もうとしているので、そういう所でも子ども向けの仕掛け・細工ができるればいい。

【意見】

公立病院のことについて。

診療科目のこと等、かなり経営ピンチなのかなということを見ていて感じる。良い先生も揃っているし、何とか頑張って存続していっていただきたい。

【副町長】

病院のことに関しては、昨年から色々と皆さんにご心配・ご迷惑をおかけして申し訳ない。

今はある程度落ち着き、新たな体制で進めている。病院自体は、今の診療科目を今ま維持していくというのは、医師の確保の問題から難しい。ただ、

公立病院を無くすという考えは町として全く持っていないし、芽室の中で病院としてどのような機能が必要なのかという所を改めて検討している最中。

今後、フルスペックで置いておくために、少なくとも経営的に成り立つ状況に持っていくためにはどうすれば良いかということを医師も含めて検討している。これは先送りしてはならない問題なので、ある程度早めに方向性を決めて、医師ならびにスタッフの確保に努めたい。芽室や他町村の今後の人口や高齢者の数に対し、どのような診療科目や体制がいいのか、他の町との連携なども含めて考えていくたい。

【意見】

公立病院を利用する立場からの要望。

待ち時間が長すぎる。例えば9時に予約をしても、呼ばれるのは10時半頃になってしまったりして困る。せめて、遅いならば遅いで、あとどの程度かかるという順番が分かるような、待っている人に見えるような表示などは無いだろうか。

また、初診でかかった時に看護師さんが来られて、今日どうされましたか？と言ったことなど色々聞いてくるが、プライバシーのこと等あり、歩けない人はともかく、出来ればその場ではなく部屋の中にでも呼んで聞いてもらいたい。決して大きな声ではなくとも、待合室だと隣の人には丸聞こえになってしまい、良い気分はしない③。

【副町長】

公立芽室病院に伝える。

【意見】

何年も前から町営リンクを作成しているが、今年気付いたことがある。グラウンドにリンクを作り、サブリンクは河川敷に作るのだが、実際にその場所を見に行った所、工事をしたままで下がガタガタな状態で驚いた。造成担当の社会教育にその状況を説明した所、「聞いていない」と言われた。ということは、学校教育の方でそういうことになっていたのかどうかは分らないが、やはりそこは、横のつなが

りとして、きちんと連携を取っていただきたい④その後結局自分たちもそのまま水を撒かせていただき、非常に苦労したが何とか完成した。今後もこのようなことがあっては困るので、どうか横のつながりはきっちりとお願いしたい。

【副町長】

本当に申し訳ない。普通はお願いする側の立場の人が現場を見に行って、今年も問題が無いことを確認した上でリンク作りをお願いするという流れが本来の姿なのだが、現場を見ないでお願いをしているということ自体がおかしい。

【意見】

いつも、こういうことがある度に「また見てないのだな」という風に感じている。

【副町長】

申し訳ない。改めて、私の立場から両担当者に話しておく。また、教育長の方からもきちんと指示するように伝えたい。

【意見】

何年か前から、砂利道を舗装してくれとお願いしている。6線6号の西側を、去年砂利を入れてもらってホコリが立たなくなり、車で通る分には良いのだが、現在、子ども達が6線まで自転車を押してからしか乗れない状態になっているので、去年の秋も、たまたま隣の地区が6号沿いにビートがあり、全部6線6号を通ったためにぐちゃぐちゃになった。グレーダーをかけてもらったということがあったが、そろそろ舗装していただければと思う。去年、栄の7号を舗装されたことと思うが、舗装の基準とは何か。件の場所はさほど人通りがあるように見えず、うちのように、色々な人が通る所は何故舗装されないのであるのかという疑問もあるので、その基準などあれば教えていただきたい。

【建設都市整備課長補佐】

今お話をあったように、去年7号の道路工事の方

を進めているが、基本的には要望を頂いて、道路整備5カ年計画というものに位置づけて、その順番で整備をしている状況。一昨年、平成30年度に道路マスター・プランの改定を行い、ある程度優先順位をつけた中で改定する考え方で道路整備を行っているが、その基準としては、色々な地域の方が使ったり、農産物の出荷であるなどの観点から、各道路が公益的に使われているのか、地域的に使われているのかということも見極めた中で進めるもの。よって、本當は要望をいただいてすぐ舗装出来れば良いのだが、ある程度地域の核となる道路を優先的に整備する考えでいる。

砂利に関しては、現在あちこちから同じようなご要望をいただいている、地域の状況を把握した中で舗装を伸ばすとか、既存の舗装道路にオーバーレイという形で舗装をもう1層設けて見栄えを良くするなども検討して、今年度策定するような流れで考えているところ。回答としては、しばらくお待ちくださいということになる。

【意見】

ぜひ早急にお願いしたい。普段出入りしているほうからでも舗装していただきたい。夏など窓を開けられないような状況で本当に困っている。

【副町長】

舗装業者と土木業者のバランスもあるので、ある程度一定の割り振りなど予算を組んでやらないといけない。そこは一定程度私の立場としても配慮はしているが、予算も限られている中での工夫になる。

【意見】

小学校と中学校の冬休みが丸々一週間ずれており、両方の子どもを持つ身としては非常に厳しいので何とか日にちを調整できないか。3日程度であるならばともかく、一週間となると負担が多い⑤

【副町長】

学習プログラムの問題もあってそういった日程になってしまったのだと思うが、私としても極力合わ

せた方が良いと思うので、そこは教育長にもよく伝えておく。

【総務課長】

最後に。4月から建物内が禁煙になるので敷地外は大丈夫だが、建物内については規制がかかってくるのでご理解いただきたい。

この施設の再整備については、令和4年度か5年度に予定であることを申し添えたい。



11:25 終了